

東洋哲学研究所の機関誌『東洋学術研究』の刊行開始50年を記念して、この短いけれども心からの祝福のメッセージをお送りすることは、私の大きな名誉です。

池田大作SGI会長によって1962年に設立された研究所と、その学術誌は、3つの大きな使命を實踐してきました。法華経に基づく研究を推進し、より高度なものにしていくこと。仏教の観点から、人間に関するテーマについて宗教間の対話と理論を發展させる

世界の仏教界で指導的地位

こと。そして、進化し続ける仏教哲学と、現代世界へその影響を研究すること、です。

私は、東洋哲学研究所とともに活動した者として、また研究所の献身的な研究者の皆さまの同業者として、そして注目すべき機関誌の一読者として、研究所創立における池田博士の指導的ビジョンに対し、そして川田洋一所長の長年にわたる優れたリーダーシップに対し、深甚の敬意を表するものです。

創立者をはじめ研究所の皆さまは、この半世紀間、世界における仏教の哲学的・文化的・学術的遺産に対し、重要な貢献を積み重ねてこられました。

仏教の世界的な拡大は、21世紀の人類がぜひとも必要としている道徳的指針を提供しています。東洋哲学研究所とその機関誌は、台頭しつつある世界の仏教の中で、指導的地位を占める資格があります。研究所が代表しているのは、聖職者の秩序でもなければ独善的宗教

ルー・マリノフ

でもなく、学術的でありながら、しかも

一般社会にも開かれたヒューマニズムであるからです。

この意味において、私は池田大作博士に格別の感謝を表したいと思います。昨年、私は博士との対談集の日本語版(『哲学ルネサンスの対話』)を発刊できました。これは私にとって、人生を変えるような経験でした。池田博士と研究所のすべての皆さまの価値多きご努力が今後も成功を続けますよう、お祈り申し上げます。

(Lou Marinoff / アメリカ実践哲学協会会長)